

## 事業を振り返って

### 八田 告 先生 (八田内科医院院長、日本高血圧協会京都府支部長)

処方した薬剤の服用方法、注意事項を薬局で説明するかのよう、治療アプリの使用方法や注意事項を薬局で説明して頂くことは、案外と自然な流れなのかもしれません。その効果は、薬剤師側のITリテラシーによるところも大きいと思われませんが、医療機関の負担軽減に期待したいと思います。

### 福岡 正平 先生 (ふくおかクリニック院長、日本循環器学会専門医)

クリニック単独で治療アプリを導入することは時間的・人的にも困難であることが多いと聞いていましたが、今回の試みで当院の業務負担が10分未満に短縮できました。さらに今回の1週間ごとの患者様への連絡は治療への意識付けをうら支えし、かつ、安心感にもつながったと思います。薬局負担が増えるものの治療の選択肢が増え普及することに期待します。

### 赤池 昭紀 先生 (厚生労働省薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会座長代理)

厚生労働省「患者のための薬局ビジョン実現のためのアクションプラン検討会」において、薬局のデジタルトランスフォーメーション (DX) が重要課題とされており、今回の事業では薬局 DX 推進の一環として、デジタル治療の推進に薬局が取り組みました。デジタル治療の普及に向けた薬局の取組みが今後の医療の重要な柱の一つになると期待しています。

### 渡邊 大記 先生 (日本薬剤師会副会長・薬局薬剤師)

治療アプリを使用する患者に対し、薬剤師が医師と連携してフォローアップしていくことは、患者が的確にかつ継続的に使用していくためにも、また医師の負担軽減にも有効であるとされてきました。今回の事業では治療アプリが処方された患者さんを薬局薬剤師が支援することにより、患者の意欲が増加し、治療の成功に寄与することがわかりました。今後のDTxの普及促進に寄与するものと考えます。

### 河野 武幸 先生 (摂南大学名誉教授、元薬学部学部長)

令和4年度改訂版の薬学教育モデル・コア・カリキュラムには、新たに「デジタル技術の利活用」が追加されました。本事業により、学修事項「医療、保健、介護、福祉におけるデジタル技術の活用例」に実装できる重要な成果が集積されました。このことは薬剤師教育にとって大きな進歩であると考えます。

### 河上 英治 先生 (京都府薬剤師会会長)

今回の事業に対して、京都府薬剤師会の会員薬局が協力することについては、大変意義があると感じております。治療アプリの使用に際し、薬局薬剤師が医師と連携して患者さんの使用をフォローすることは、実薬を使用せずに実施できることから副作用もなく、ポリファーマシーの観点から大変重要と考えています。今後もデジタル治療の普及に協力し、国民に安全な医療を届けていきたいと思っております。

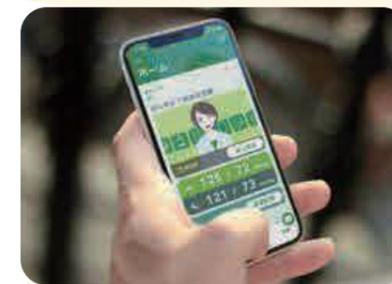
# デジタル治療 (DTx) に臨む患者への 薬局支援の有用性検証事業



デジタル技術の発展に伴い、国の承認を受けた治療用アプリ等の医療機器プログラムによる治療が行われるようになってきており、デジタル治療 (DTx) と呼ばれています。

例えば、医師が処方したアプリを患者さんのスマートフォンに入れて治療を行うものがあります。患者さんの健康に関する情報や、日常生活行動を主治医と共有したり、アプリから生活改善の助言がされるなど、患者さんの行動を変えるといったようなアプローチによる治療です。ただし、効果的な治療には、患者さんが継続的にアプリを使用することが必要です。

そこで、本事業では、アプリを介したデジタル治療に対して、主治医と連携した薬局薬剤師が服薬指導と同様に患者さんを支援することが、アプリの継続使用に与える影響を確認しました。



## 薬剤師の支援が有意義な治療につながる可能性が示されました！

- 患者さんのアプリを使用した治療に対する不安が軽減されました。
- 患者さんの治療への理解が向上しました。
- 処方から1ヵ月後も全員がアプリを継続使用中です。



一般社団法人  
京都府薬剤師会

# ～ 医師と連携して、薬剤師が患者さんのアプリ治療を支援しました！～

- ① 医師から治療アプリを処方された患者さんに来局いただき、アプリのダウンロードや初期設定、使い方などを支援しました。
- ② 2回目の通院(1ヵ月後)まで、薬剤師が患者さんの同意のもとに1週間に1度ほどお電話して、血圧の測定やアプリの使用状況、お困りごとなどを聞き取り、アプリを日々使っていただくための支援をしました。
- ③ 患者さん同意のもと、必要に応じて医師と患者さんの状況を共有し、アプリの継続治療を支援しました。

### 薬局でもらえること

① 薬剤師がスマートフォンのアプリ設定等を支援して、すぐに使えるようにします。

薬剤師がアプリの使い方について、分かり易く指導します。

② アプリの不安やお困りのことを、薬剤師が支援します。

③ アプリによる治療の継続を、医師と連携して支援します。

定期的な支援

### 事業の流れ (医療機関 ↔ 薬局)

受診し、医師から治療アプリの説明と薬剤師による支援について説明を受ける

診療とアプリの説明を受けた後、薬局に行って具体的な支援内容について説明を受ける

薬局の薬剤師によるアプリ導入の支援を受ける

アプリ導入時における患者様向けアンケートを記入する(1回目)

薬剤師からの電話等による週1回程度の定期的な支援

次の受診後、再度薬局に行って1ヶ月間のアプリ使用に関する患者向けアンケートを記入する(2回目)

## 事業実施方法

### 検証に用いた医療機器プログラム

保険診療として使用可能な「CureApp HT 高血圧治療補助アプリ<sup>®</sup>」を使用。

### 事業参加薬局

京都市内の薬局から参加希望薬局を募集し、事業内容の理解、薬剤師に対するDTxの事前研修として本アプリの取扱いに精通した医師によるオンデマンド研修の聴講、処方医との事前打ち合わせを実施して事業に臨んだ。

### 患者支援の内容

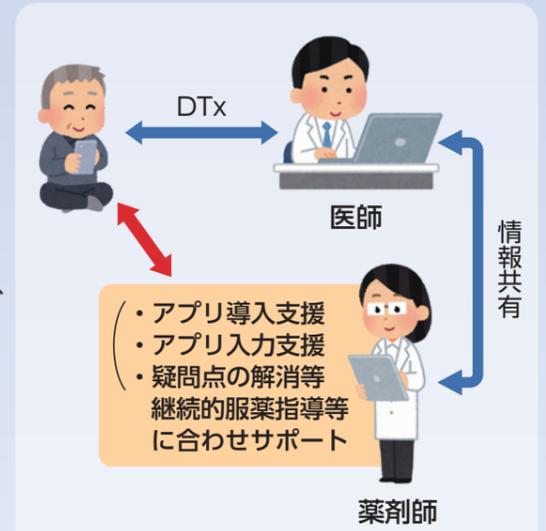
- 初回薬局来局時・・・処方直後のアプリの初期設定、使用方法の説明
- アプリ使用開始後・・・次回通院(1ヵ月後)まで週1回の電話による連絡、助言、不安や疑問の解消等を実施

### 患者支援実施期間

2023年12月～2024年2月

### 検証方法

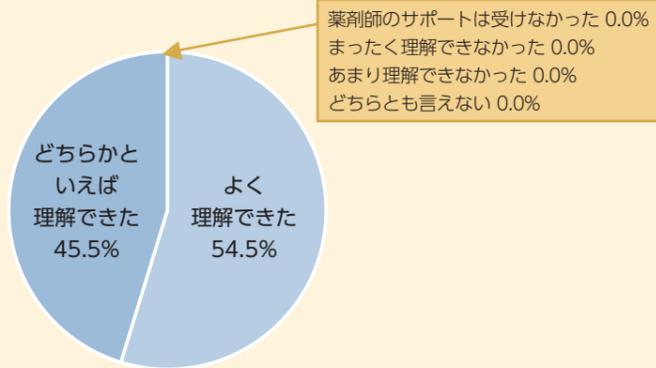
患者、医師及び薬剤師を対象として、アプリ処方時と次回通院時の2回、アンケート調査を実施  
(期間中の処方実績が少ないため、全ての患者に薬局支援を行うこととし、薬局支援の有無による効果の比較を行うことはできなかった。)



## 事業結果

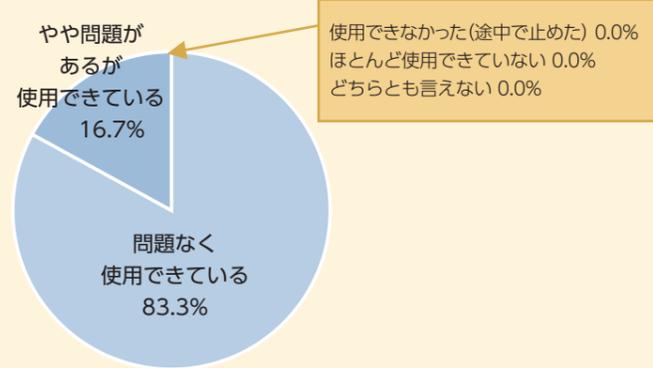
医師と薬局薬剤師が連携し、治療アプリを処方された患者の支援を薬剤師が行い、医師、患者及び薬剤師にアプリ処方時と2回目の通院(来局)時の2回、アンケート調査を実施して、薬剤師の患者支援効果を検証した。  
※期間中にアプリを処方した医院は5件、処方を受けた患者は12名、支援した薬局は4件。

### 初回来局時の薬剤師の支援による患者さんのアプリの使い方の理解 (患者アンケート)



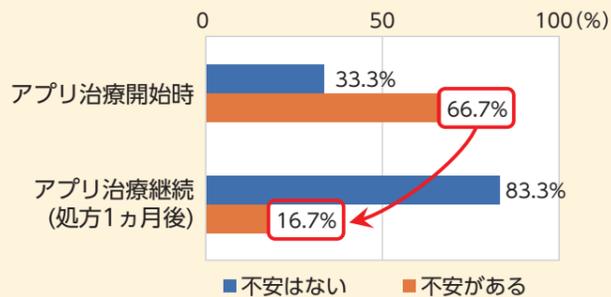
✓ 薬剤師がアプリを処方された患者を支援した結果、すべての患者がアプリの使い方に一定の理解を示した。  
(「よく理解できた」+「どちらかといえば理解できた」)

### 初回来局から1ヵ月後の患者さんのアプリの使用状況 (患者アンケート)



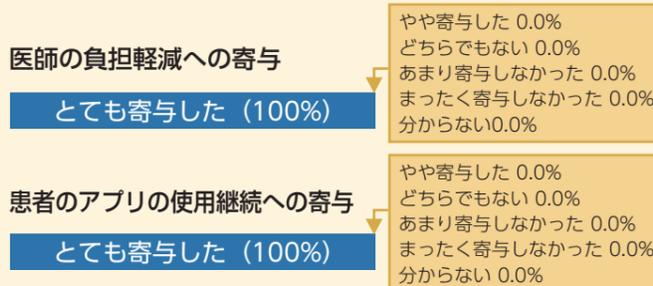
✓ 薬剤師が定期的に患者の支援を実施した結果、初回来局から1ヵ月後もすべての患者がアプリを使用している。  
(「問題なく使用できている」+「やや問題があるが使用できている」)

### アプリを使った治療を継続するにあたり患者さんが不安に感じること (患者アンケート)



✓ 患者の多くは「アプリを使い続けられるか不安」であった。  
✓ アプリ治療開始時に不安を感じる患者は7割近くいたが、薬剤師の支援後は2割弱となり大幅に軽減された。

### 薬剤師が患者さんを支援することによる、医師の負担軽減とアプリ使用継続の寄与度 (医師アンケート)



✓ 処方から1ヵ月後の医師アンケートでは、すべての医師が、薬剤師の患者支援について「医師の負担軽減」にも「患者のアプリ使用継続」にも「とても寄与する」と高く評価した。

## 参加者の声

### 患者さん



- ・アプリを始めてから減塩を意識しました。これからもアプリを使用して、血圧が下がる生活をしていきたいです。
- ・食べた品目の塩分量を調べるのが難しかったです。
- ・アプリの使用状況について、薬剤師さんから毎週確認の電話をいただき、その都度、疑問点を聞いたので良かったです。

### 医師



- ・処方コードのみ発行するだけで、薬局さんが使用できるまでいつでも応援してくださっているので、他の患者さんの待ち時間の減少にもつながり、助かっています。
- ・薬局さんが積極的に指導されており、患者さんの理解が進みました。
- ・患者さんの治療や病気に対する理解が深まりました。
- ・患者さんの治療に向かうモチベーションがアップしました。
- ・薬局さんが定期的に連絡することで、患者さんの意識づけになりました。

### 薬局薬剤師



- ・「アプリの実施により血圧が良好になった。」と患者さんがおっしゃっていたので安心しました。
- ・今回は週1回の電話での確認をしましたが、この作業がとても難しかったです。しかし、薬局が支援していることが伝わり会話も増え良い点も多かったです。
- ・フォローアップでこちらから介入する薬剤師の対応により、患者さんが安心して治療を続けられることが分かりました。
- ・薬剤師が対応することで、多忙な医師や会話の無いアプリではフォローしきれない部分(意欲やアプリ治療への理解等)を毎週対話でフォローすることにより、アプリの継続使用が進んだと考えられます。
- ・患者さんとアプリ情報が共有出来ないので、状況の聴き取りに時間を要しました。薬剤師側でもアプリ情報を共有することができれば正確に状況を掴めるので、もっと能率的に、かつ適切に支援ができると考えます。